

(様式第4号)

上田市環境審議会 会議概要

1 審議会名	上田市環境審議会
2 日時	令和5年2月2日 午前9時30分か午前11時50分まで
3 会場	市役所本庁舎 4階 庁議室
4 出席者	高橋伸英会長、川田富夫副会長、吉川由紀子委員、土川哲志委員、北條作美委員、下城裕子委員、丸山かず子委員、山野井徹委員、林健一委員、保母裕美委員
5 市側出席者	【生活環境部】北島生活環境部長 【生活環境課】山岸課長、中村課長補佐兼環境政策担当係長、片上課長補佐兼環境保全担当係長、母袋環境政策担当主任、小宮山環境政策担当主事、原田環境保全担当主事 【都市計画課】中村課長補佐兼街路公園整備担当係長、鳥羽景観緑化係主事 【交通政策課】山田課長補佐兼交通政策担当係長 【森林整備課】茅野課長、斎藤課長補佐兼森林整備担当係長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年3月20日

協議事項等

1 開会	
2 会長あいさつ	
3 議事	
(1) 第二次上田市環境基本計画中間見直し 答申案について	
	・資料に沿い、事務局から説明 ・以降、協議
(委員)	環境指標IV-2-02「里山整備ボランティア」の指標の廃止について、これは誤解が生じるのではないかと。 私の自治会では、住民の合意の下、里山整備を実施している。今回の見直しによって、指標を廃止とすると、そうした取組や住民ボランティアには不要、というメッセージになってしまわないか。市全体ではもっと多くの実績があると思われるが、指標における住民ボランティアとは何を意味しているのか。
(事務局)	御指摘のとおり、市全体では相当数の活動実績があると思われる。本計画における指標については、市で把握している染谷台グリーンベルトの一部エリアの活動実績についてのみである。多くの実績がある中、一部エリアの活動実績のみを指標とするのは適さないということで、今回、指標からはずすことを検討したい。市全体でとなると把握が難しく、何を以て指標とするのかを検討する必要がある。
(委員)	廃止とすると、現在の住民活動に水をさすことになりかねない。
(事務局)	環境指標としての掲載がなくなるということで、そうした取組を必要としていないということではない。 環境施策としては、例えば、森林・里山活動の推進として、ボランティアや市民協働による森林整備や、住民の主体的な森林整備活動を支援するとあり、そうしたことは継続していく。
(委員)	染谷台グリーンベルト活動に関わっており、地域住民と協力してこれから整備を実施していく動きがある。そうした中で、廃止というのは悲しい。 都市計画マスタープランにおいても、里山以外に都市緑地が記載されている。一部地域の活動実績ではあるが、その取組が他の自治会の活動等にも繋がっていくことも考えられる。やはり、指標としては残していただきたい。

(事務局) 持ち帰り、検討させていただきたい。

(委員) 上田市地球温暖化対策地域推進計画の策定も同時に進んでいるが、それと比較して、例えば、環境指標 I-1-02「別所線輸送人員」や I-1-03「市内路線バス等の輸送人員」について、消極的であると感じる。

I-1-05「シェアサイクルの利用回数」では、回数が増えているが、シェアサイクルを利用する人達が増えるということは、街中を歩く人、公共交通を利用する人が増えるということでもある。

拠点&ネットワークのまちづくりを進めるのであれば、拠点と拠点をつなぐのは公共交通、拠点内の移動はシェアサイクル、そうしたまちのビジョンを描く必要があるのではないかと。また、現実からスタートする目標ではなく、あるべき姿から逆算した目標を設定すべきである。現状の延長として到達可能な数値を設定するのは目標ではない。

そうしたことを踏まえ、計画策定時(2016年)の数値よりも少なくなる目標というのは、上田市の地球温暖化対策としても整合が取れていないのではないかと。

(事務局) 上田市では、上田市総合計画が最上位計画となり、令和3年度から令和7年度を計画期間としている。別所線については、台風19号災害によって橋梁が崩落し、利用者の復興の途上であり、また、コロナ禍によって利用者離れも進んでいる。利用者増とする目標が望ましいが、総合計画との整合や人口減少社会の流れも含めて、現状維持とした。一方で、最近では市民団体の皆様と公共交通を生かした“まちづくり”の勉強会を開催していく中で、その必要性が浸透してきたように感じる。

総合計画と下位計画については、指標の考え方やその数値目標について、全体的な調整が必要と思われる。

(事務局) 上位計画の中で設定された目標に対して、まずは現実解があり、将来に向けてどのように進めて行くべきか、ありたい姿を目指すかという目標に対して最適解があるかと考える。現在の数値目標は現実解ではあるが、ありたい姿に寄せていくことも当然実施していく。上位計画との関係性もあるため、数値については検討させていただきたい。

(委員) これまでも指摘しているが、上位計画の存在が下位計画の足を引っ張ることになっていないか。どちらが先に計画を立てたかで、目標値の変更等ができない、という状況になっている印象がある。

以前、別の場において、上位計画の細かな数値目標については下位計画にて設定すると説明を受けたが、下位計画の数値設定の際には、上位計画で定められているので変更できない旨の回答を受けたことがある。互いの計画の存在が足を引っ張り合うことがないようにしていただきたい。

(委員) 環境指標IV-2-03「街路樹の植栽延長」についても、計画策定時(2016年)と変わらない目標値である。

現状維持を目標としたと推察するが、都市計画マスタープランにおいても緑を増やす方針が示されている。維持することも大変であるとは思いますが、やはり目標であるので、緑を増やす方針とすべきではないかと。

(事務局) 市としても、新たに街路が整備されれば、当然、緑地帯等を整備していく方針である。一方で、本指標においては、市で管理している街路についてである。計画期間内においては、街路を整備する予定がなく、そのため、現状維持の目標としている。

また、わずかではあるが、例えば、ポケットパーク等を整備した場合においては、緑を増やしていく方針である。

(委員) 街路を新たに整備してほしいのではなく、街路樹の植栽を伸長してほしいという趣旨

で質問をした。電線地中化を実施した箇所は、現状、街路樹がなくなっていると思うがその点はどうか。

(事務局) 委員の指摘する箇所は、おそらく、県管轄の場所と思われる。市で実施している箇所（新参町線）については、定められた歩道幅員を確保しつつ、植樹帯を設けることが可能な箇所については、地元の自治会と協議し、植樹を実施することになる。

(委員) 私が指摘した箇所は県が管轄する箇所と思う。しかし、市民から見れば、県の管轄、市の管轄は区別できない。街路樹が減ってるな、という実感しかない。そもそもこの数値目標は、どういった施策の進捗状況を測るために設定されたのか。街路樹の植栽延長を伸ばしていくのであれば、県に働きかけていくことも必要と思われる。他方、ポケットパークの整備によって、街中の緑を増やしていくのであれば、ポケットパークの整備箇所を新たに指標として進めて行く方がよいのではないか。施策との関連性を踏まえて、指標の設定や数値目標を見直してほしい。

(委員) 他の指標、例えば、里山整備ボランティアにも該当するが、指標の表現を丁寧に記載すべきではないか。街路樹の伸長について、市で管轄している範囲の街路樹なのであれば、そのように標記すべきと思う。そうであれば、誤解は少なくなると思う。

(事務局) 別所線について、2027年度の目標が達成されると、経営は黒字化されるのか。

(委員) 黒字化には至らない。黒字化にはこれまで到達したことがない規模の乗車人数が必要。

(委員) 完全な黒字化が困難であることは承知しているが、あまりに現実的な目標については、やはり目標として適さないと思う。先ほどの緑地帯も同様である。

(事務局) いただいた意見については、出来る限り再検討していきたい。第二次上田市環境基本計画は2027年度以降に全面改訂を予定しているが、その際に、どんな視点で指標・目標を設定しているのかということについて、検討していきたい。

(委員) ポケットパークの整備の話があったが、その後の手入れがないと、残念な様相になってしまう。整備する際には、その土地にあった植物を選び、整備やメンテナンスを実施してもらいたい。

(事務局) ポケットパークについては、多くの部署で管理しているため一概には言えないが、委員の指摘のとおり、その後の維持管理が出来ていないと感じている箇所はある。

(委員) 環境指標Ⅱ-1-01「森林整備面積（市有林・私有林間伐実施面積）」について、間伐から主伐を中心とした森林整備に移行し、林齢の平準化を進めるとしているが、主伐の目標数値はないのか。

(事務局) 私有林の主伐には個人の権利が関わるため、市において主伐の目標を設定し、それを強制するようなことは難しい。また、主伐を実施する時の経済動向も関係してくる。そうしたことから、主伐の目標は設定せず、間伐を目標数値としていることを御理解いただきたい。

(委員) 数値だけを見ると間伐を実施しない、森林整備を実施しない様に見えてしまう。今年度に審議している上田市地球温暖化対策地域推進計画では、上田市内の森林によるCO₂吸収量についても見込んだ目標となっている。

(事務局) 現在、上田市含む日本の森林は林齢が上昇し、CO₂吸収量が少なくなっている。主伐を進め、若い気を植樹し、CO₂吸収量を増やす方針には賛成である。一方で、その進捗を評価するための指標については、設定可能な指標があれば検討いただきたい。委員の発言の趣旨は理解している。一方で、先述のとおり、主伐となると個人の権利もかかわってくる。主伐と再生林をセットで実施していかななくてはならないが、その

ためには労働力が必要であり、現実的には困難である。森林整備として、間伐と併せて主伐や再造林を進めて行くという考えはもっているため、御理解いただきたい。

(委員) 状況については、承知している。森林資源を有効に活用していくにあたり、切るのが先か、利用が先か、という議論にもなる。高付加価値を付けて利用を促すなど、どこかで森林資源の利用を強力に推進していく必要があると思う。

(委員) 基本方針Ⅲ-2 再生可能エネルギーについて、「公共施設への太陽光や太陽熱、地中熱等の再生可能エネルギー設備の導入を推進します」とあるが、バイオマスエネルギーについても記載すべきではないか。

(事務局) 承知した。

(委員) 今回、多くの課が関与する数値目標等が設定されたが、その数値や推進体制はどのようなのか。

(事務局) 今回の様に担当課とも確認をとりながら進めて行くことを想定している。上田市の森林による CO₂ 吸収量についても、担当課同士で確認をとって数値目標を設定している。今後の森林整備、主伐や間伐、再造林と進めて行くが、政策や数値の整合性については担当課同士で話し合い、進めて参りたいと考えているので、御理解いただきたい。

(委員) いままでの審議と同様の意見だが、環境指標 V-1-01「児童による田植えへの参加人数」についても、これは、単純に小学 5 年生の人数に合わせた数値であって、目標ではない。指標として再考すべきではないか。

(2) 令和 4 年度環境レポートについて (令和 3 年度実績)

- ・資料に沿い、事務局から説明
- ・以降、協議

(委員) 地下水 (井戸水) の水質検査結果について、硝酸性及び亜硝酸性窒素の濃度が、数年にわたって環境基準を上回っている地点があり、これは速やかに解決すべきであると思われる。住民にもこの状況を伝えていくべきと考える。県にはこの状況を相談しているのか。

(事務局) 県も把握している。過去には、県の方から住民に対して、硝酸性及び亜硝酸性窒素濃度が基準を超過していることを注意喚起している。原因については、明確になっていない。付近を流れる沢の水については、基準値を超過する濃度は検出されなかった。ちょうど昨日、同地籍の別地点の採水を行ったところであり、その結果を受けて、また対応について検討していきたい。

なお、基準値は超過しているものの、平成 28～平成 30 年と比較すると、濃度は低下傾向が認められる。

(委員) 原因は判明しているのか。

(事務局) していない。

(委員) 原因が判明しないと、効果的な対策もできない。

- (事務局) 新幹線騒音について、基準値が超過している地点がある。別ページで示されている苦情件数には、新幹線騒音は含まれているのか。
- (委員) 新幹線の騒音に関する苦情は含まれていない。
- (事務局) もし苦情があった場合は JR に申し入れるのか。
- (委員) 苦情の有無にかかわらず、測定結果とともに沿線自治体の連名で改善要望を行っている。例えば、防音壁等の設備の設置だけでなく、運行スピードの調整等の対応方法もあるかと思う。改善には時間がかかるという認識であるが、引き続き要望を実施していく。
- (委員) 環境レポートの数値と、別資料において、同じ項目でも数値が異なるものがある。これは別の指標数値なのか、本来、同じ数値であるべきなのか。
- (事務局) 本来、同じ数値になるものである。修正させていただく。
- (委員) 2021 年度の騒音に係る苦情件数は 28 件と記載されているが、こういった場所が発生源となっているのか。
- (事務局) 建設工事や近隣トラブルに近い様なものまで様々であり、恒常的な発生源というものは特にないと認識している。
- (委員) 大気に係る苦情についてはどうか。
- (事務局) 基本的には、野焼きが原因である。
- (委員) 悪臭も野焼きによるものか。
- (事務局) 野焼きが原因となるものもある。申立内容によって、大気や悪臭に振り分けている。
- (委員) そうした苦情の原因は無くなる方が良いが、ひとまず、恒常的な固定発生源はないということで安心した。

4 その他（事務連絡等）

5 閉会